



認定特定非営利活動法人

RASA-Japan ニュースレター

理事長 藤井 典夫

〒468-0014 名古屋市天白区中平2-2627 Tel/Fax 052-803-1649

ホームページ <http://rasa-japan.com> e-mail info@rasa-japan.com

郵便振替 口座番号 00890-4-31185

受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan

三菱UFJ銀行 平針支店 普通 0037025

トクティヒエイリカツドウハウジンラサジャパン

2021.7
Vol.37

ごあいさつ

理事長

藤井 典夫



コロナ禍で大変な時、こうしてニュースレター第37号を皆様にお届けできることは、私たちRASAにとってこの上ない大きな喜びです。年3回の発行ですが、皆様にごあいさつができるのもこの時だけです。

コロナのワクチン接種は済まされましたでしょうか。コロナ関連の報道では決まって長い針を深く差し込む痛そうな注射の場面を目にしますが、私は予想していたより痛さを感じず接種を終えることができました。

さて、フィリピンはコロナの蔓延が続いています。学校は閉鎖中で、外出禁止令発令中だそうです。先生方も当番の日以外は登校できず、学校の情報があまり入って来ないため、「共同通信社」のフィリピンの一般的な情報しか入手できない現状です。

栄養失調児救済の給食支援活動は、約1年間中断

したままの状態です。もともと栄養失調状態の子供たちは体力も弱いうえ、満足な食事もしていません。RASAの給食が1日の中で口に入る唯一の食事という子供がほとんどです。「生きているだろうか?」「命を落とした子どもはいないだろうか?」「親に仕事がないあの子は何か食べているだろうか?」…心配事が次々に浮かんでいきます。

そこで、担当理事が学校側と話し合い重ね、食品配付支援を行っています(詳細:4,5頁)。渡航ができないため、RASAの活動をよくご存知の現地の方に、「現地駐在員」として活動していただくことにいたしました。その方は現地で事業を営む実業家で、奥様は給食支援活動を行っているサウスビル I 小学校の先生でもあります。彼の頑張りが支援活動の支えとなっています。

RASAはご承知のように、フィリピンでの人道支援が活動の中心です。日本国内のボランティア派遣事業は、大学生を中心とした若者たちの募集、事前予備教育、帰国反省会などが中心のため、コロナ禍の現在は派遣もできませんので、休眠状態となっています。

今後、活動が平常に戻った時には、皆様方のこれまでも増したご支援をお願いいたします。厳しい暑さとコロナに気をつけられますようお願いをいたしまして、ごあいさつといたします。

【クラウドファンディング】2022年学校建設工事スケジュールについて

2022年2月着工のバラグタス・セントラル・スクールの建設工事日程計画が、現地建設会社シグニー・コンストラクションから送られてきました。ただし、フィリピンはコロナ禍の真只中で、来年の計画は変更される可能性があることを前提にしています。変更された際には、その内容等をニュースレター等でお知らせいたします。

No	主要工事	概略日程	No	主要工程	概略日程
1	材料倉庫、作業場建設等	1月中旬	8	ドア、窓、ガラス工事	3月上旬~4月上旬
2	鉄筋作業一式	1月下旬	9	配管工事と関連作業	〃
3	土木・嵩上げ工事一式	2月初旬	10	電気配管配線工事	4月下旬~5月中旬
4	コンクリート工事	2月初め	11	ペンキ作業	5月下旬
5	型枠、足場工事等	2月中旬	12	仮設物撤去、周辺整理	5月下旬
6	屋根フレーム作業	3月上旬	13	完成検査	6月上旬
7	床作業開始	3月下旬			

定時総会を終えて

1 はじめに

去る5月15日に第12回総会を無事に終了することが出来ました。今年の定時総会は監督官庁の指導もあり、書面による賛否を委任状で投票していただくことにいたしました。

結果、すべての社員の方に、昨年度の活動や決算、私以下全理事の活動、来年度の活動計画、予算について承認していただきました。

理事全員、一年間力を合わせて困難な時期を乗り切る所存でありますことをお約束する次第です。

2 クラウドファンディング

フィリピンの2022年学校建設予定地の地盤が低く、嵩上げ工事に多額の費用がかかるため、当団体として初めて「クラウドファンディング」に挑戦しました。

活動期間中、多くのご意見やアドバイスをいただき、特に社員の方々には一方ならぬご尽力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

また大変ありがたかったのは、ボランティア活動で活躍していただいたOB・OGの方々の頑張りでした。

そして、北海道から沖縄まで全国各地からの温かいご支援とともに、企業の一般財団法人である社会貢献委員会様から思いがけない多額のご寄付をいただいたことで、目標金額500万円を達成することが出来ました。本当にありがとうございました。

3 持続化給付金の援助

政府のコロナ禍により打撃を受けている個人、企業に対する「持続化給付金」という支援制度に、当団体もボランティア派遣事業で大きなダメージを受けたため、資料を整えて申請いたしました。

結果、200万円満額の持続化給付金をいただくことができ、大変ありがたいことでした。

4 次年度の取り組み

コロナ禍は何時収束するのか。フィリピンで支援活動をしている当団体にとって、最大の関心事です。

学校建設事業は、2022年2月に着工、フィリピンの新学期が始まる6月には竣工する計画です。ボランティアは派遣できないため、現地業者のみで完成させる予定です。

ボランティア派遣事業は、いつ再開できるか未定です。日本の大学ではボランティアの募集ができる状態ではありませんし、募集ができたとしてもご家族の賛同が得られるかは未知数で、難しいと考えます。

給食支援事業は、対象学校のサウスビル I 小学校の体制次第であり、コロナ次第といっても過言ではありません。給食支援事業資金の大半を支援いただいている「手を貸す運動 II」の了解が得られれば、給食支援が開始されるまで、食品配付による支援に切り替えて活動をしたいと思います。

5 結び

2020年カカロンバタ小学校建設活動に参加されたボランティアの中から、今後中心となってRASAの後輩ボランティア募集活動に情熱を注いでくださる方たちでチームを作りました。

しかし、活動参加時は大学2年生だった彼らも今年は4年生になり、当時のモチベーションをいかに持続させていくことが出来るかといった気持ちの課題があります。

ボランティア募集再開時には、各大学で活動を展開してスムーズな後輩の募集につながるように、体制の見直しを進めておくことが当面の重要なテーマであると考えます。各大学で選ばれたリーダーたちは、きっとその役割を果たしてくれると思います。

定款変更について

コロナ禍によって、フィリピンの子供たちは困難に直面しております。特に当団体が給食支援をしているサウスビル I 小学校の栄養失調児は、1日に1度とはいえず学校に行けば栄養ある食事が出来ました。しかし学校が閉鎖され、給食にあずかることができなくなりました。

また、学校閉鎖中は対面授業ができないため、オンライン授業に切り替えました。パソコン環境が整えられない家庭には先生がプリントを準備して、保護者が受け取りに登校しています。全校児童約5,180名のうちオンライン授業に参加できるのは一握り、ほとんどはプリントになるでしょう。

そのため、プリント用紙、プリンター、スキャナーなどが不足し、校長先生から支援要請がきました。給食支援事業コーディネーターの先生からも「極貧の児童を救ってください！」との訴えが担当理事のところがありました。

そこで、監督官庁に支援の相談したところ、「定款の変更」しか解決の方法がありませんでした。現在の当団体の定款は教育施設、生活支援施設の建設といったハード面の支援です。しかし、今回のようにオンライン授業やOA化など、教育は質的な変化をしている事実があります。

このような質の変化に対応できる支援の重要性を考え、5月の定時総会で定款「第5条」をソフト面の支援に応える体制準備をする事に承認いただきました。これから、NPOが事業展開するために活動目的を明確にして、かつ事業の内容を定款という形で国の承認をいただき、その内容を法務局に登録をしたいと思います。

令和二年度「特定非営利活動に係る」活動計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日まで

単位:円

科目	前期決算	当期決算	備考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入	180,000	490,000	
1) 受取正会員会費	135,000	105,000	会員年会費
2) 受取賛助会員会費	45,000	85,000	
3) 受取団体会員会費		300,000	団体会員年会費
2 事業収入	8,229,688		
1) ボランティア参加費	8,229,688		ボランティア参加費
3 補助金等収入		2,000,000	
1) 受取助成金		2,000,000	持続化給付金
2) 受取補助金			
4 寄付金収入	5,143,104	5,599,015	
1) 受取寄付金	5,143,104	5,599,015	手を貸す運動Ⅱ他寄付金
5 雑収入	16,763	21,586	
1) 受取利息	48	20	銀行利息
2) 雑収入	16,715	21,566	
経常収入合計	13,569,555	8,110,601	
II 経常支出の部			
1 事業費	15,302,622	694,707	
1) 学校建設事業	10,939,348	694,707	
2) 栄養障害児救済事業	4,363,274		
2 管理費	2,710,158	2,285,047	
1) 人件費	798,950	811,775	
給与 手当	798,950	811,775	パート勤務スタッフ1名雇用
2) その他経費	1,911,208	1,473,272	
会議費	102,878	56,452	会議関連費用
旅費交通費	144,823	77,630	運賃等
賄費	198,913	123,240	
通信運搬費	261,902	294,832	郵送料等
消耗品費	71,265		
事務用品費	359,507	132,867	
修繕費	87,770	73,700	
消耗什器備品費	48,293	96,831	
水道光熱費		4,860	灯油
賃借料	451,000	472,000	駐車料他
広告宣伝費	37,800		企業向パンフレット
印刷製本費		42,045	
保険料	11,414		
諸会費	21,500	10,000	
租税公課	2,400	55,847	収入印紙等
雑費	111,743	32,968	振込手数料等
経常支出合計	18,012,780	2,979,754	
経常収支差額	▼4,443,225	5,130,847	
III 経常外収益			
経常外収益計			
IV 経常外費用			
1) 過年度損益修正損			
経常外費用計			
当期収支差額	▼4,443,225	5,130,847	
前期繰越額	10,516,678	6,073,453	
次期繰越収支差額	6,073,453	11,204,300	

※クラウドファンディング支援金は入金日が令和3年4月9日のため、次年度計上となります。

命をつなぐ「食品配付支援」を実施しました！

給食支援活動を行っているサウスビル I 小学校では、都市封鎖の繰り返して休校が1年3ヶ月も継続し、あらゆる環境が大きく変貌しました。給食支援活動も中断しています。

昨年度は5,600人だった在籍児童数が、今春には5,180人と激減。都会から強制移住させられた貧困層が多く、日銭稼ぎの不安定な収入のため、仕事を求めて移住したことが原因です。

この地域の居住者は、『中流』といわれる「食事が1日に2回できるかどうかの世帯」が40%、残りほとんどがさらに貧しい世帯です。児童労働のために学年中にドロップアウト(中途退学)や出席数が不足し進級できないなどが原因で、同じ学年内で3~4歳の年齢差があります。日本では想像すらできない貧困の実態です。

その上、長引くコロナ禍が彼らをさらに過酷な生活状態に陥らせています。貧困者には、直接真っ先に影響が及ぶのです。乳幼児の死亡率も高くなっているそうです。政府の支援は確実に届かず、届いてもほんの僅かなため当てにはできません。

学校教育もオンライン授業を受けることができる児童は僅かで、環境を整えることができない貧困児童は印刷教材で自習です。教育だけでなく、日々の糧をどうしたら手に入れられるかと困窮する家庭も多々出てきています。この状況から、RASAとして一日も早く支援をしなければと、学校側と協議に取り掛かりました。

今回の支援は、昨年6月に実施した「お米の現物配付」が児童だけでなく、家庭にも大きな支援になった経験を生かしたいと考えました。すると、学校長から「給食支援児童100人だけでなく、5,180人児童全員に区別なく配付してほしい。」と意見がありました。それは、貧困地域で都市封鎖のため誰もが貧しくなっているという見解からです。

しかし、それではRASAの支援対象である栄養失調児とは異なり、資金的にも不可能です。学校長にRASAの意向をご理解いただくのに1ヶ月を要しましたが、その後は全面支援を頂けました。

けれども、支援実行となると食品の購入、運搬、仕分け、配付などは人的協力がなければできません。資金は給食支援の予算を充当するとして、この非常時に現場の協力がどのようにしたら得られるかが大きな問題です。

また、当分渡航不可能を予測して、実行にあたり学校外にRASAの現地支所を置いて活動してもらえる協力者が必要と考えました。

そこで、以前からスタディーツアーで日本のボランティア滞在時に、不備が起きると率先して援助して下さったデニス氏に、「支援のために『現地駐在員』として活動してくれる協力者がどうしても必要です!」と依頼したところ、この状況下でもご理解いただき、引き受けを快諾していただいたのです。

さらに、長年給食指導経験のあるコーディネータから、この支援活動への自主的な応援や指導、協力を得られました。購入や配付にあたり、移動制限や交通費の高騰、保護者への連絡不備・不通など次々と起こる問題をスムーズにこなして、無事に全て配付し終えることができました。現地の事情に合った、大きな支援ができました。



合意書を交わす (左) サウスビル I 小学校長 (右) 現地駐在員 デニス氏



移動制限があるため、デニス氏宅にて個別包装

食品配付支援活動報告

- ◆期 間:5/24～7/9 (第3学期 7週間)
※1週間を5日分として、3回に分けて合計35日分を配付
- ◆対 象:140人一幼稚園から6年生(7学年)の各学年20人を先生が選択
- ◆配付方法:保護者に手渡しするー自宅学習用プリントを受け取りに保護者が週に1回登校するため
※欠席の場合は連絡を取り、自宅へ配達
- ◆予 算:1人につき50ペソ/日(約115円) 総額29万ペソ(約67万円)
- ◆配付食品
1回目 6/3 (2週間分) 米5Kg、ミート缶6個、粉ミルク120g、ヌードル5袋
2回目 6/16 (2週間分) 米5kg、ミート缶2個、魚缶4個、粉ミルク120g、ヌードル5袋
3回目 6/30 (3週間分) 米10kg、食パン1本、玉子10個、ミート缶2個、魚缶4個、粉ミルク120g



感染予防対策をして、配付しました

欠席の場合は自宅へ配達

皆様の温かいご支援で、140人の児童と家族に食品配付をすることができました。深く感謝申し上げます。デニス氏には移動制限の中、購入方法の工夫や配慮、自家用車での運搬、運び出しの重労働、自宅を開放してパッケージ(包装)、RASA支援の展示物作成、会計報告等誠実に尽力いただき、感謝でいっぱいです。新学期の始まりはまだ未定ですが、始まり次第支援を継続していきたいと思ひます。フィリピンの子供たちのために、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

児童から感謝の言葉が届きました！

両親は、RASA-Japanの絶大なる支援に感謝しています!家族にとって非常に大きな助けとなっています。

「家で食べるもの、何があるの?」「食べられるもの何かない?」「どこで食べ物が手に入れられるかな?」常に頭から離れない悩みが、この支援のおかげで減りました!

私だけでなく家族全員が、近所や小学校の友だちから助けを得て生活していました。本当にありがとうございます。

この学年はまもなく終わります。RASA-Japanの寛大な支援にとっても感謝しています。支援対象者に選んでいただいて、光栄です。



ご支援者様の声

RASAの活動に長年ご理解と支援をいただいております、ご支援者様からのメッセージを紹介させていただきます。コロナ禍で直接出向くことが困難な時期に、広報活動への道を広げてくださいました。

何年か前にRASAの藤井忠子さんから、フィリピンの子供たちが置かれている状態とRASAの活動についてお話を聞きました。私は、フィリピンの経済は成長を遂げていて、カトリック信者が多い国なのに何故貧しい人々がこんなに多いのかと思っていました。

調べてみると、経済の発展の恩恵を受けるのは一部の人々で、実質的な世帯の収入や支出は1%強、農業は輸出向きの作物が主で、農民の主食の米や穀物は大きく作られていない。大地主が殆どの利益を吸い上げる事などを知りました。

子供たちが教育を受けて、安定した仕事に就ければ貧困の悪循環から抜け出すことができると考えて、学校建設と奨学金支給を始められたSeland

神父の深い思いはRASAに引き継がれて、一方の柱である栄養失調の子供たちへの給食も続けられています。藤井さんご夫妻の長年に亘る献身的な働きで、支援の輪は大きく広がりました。

2022年の新しい学校建設に向けて昨年末に500万円の目標額でクラウドファンディングが始まり、当初は大きな目標の達成を懸念しましたが、2月に中日新聞にRASAの記事が載り、続いて朝日新聞にも載った事で、全国の皆様からの支援が集まり目標額を達成できたようです。

人が人を思うことの素晴らしさがRASAを通じて広がっていき、困難に直面している人々に希望を届けられるようになることを祈っています。

ご支援者様から「RASAのように長い年月寄り添い続けて、人々の未来を描こうとするプロジェクトは少ないと思います。」とお言葉をいただき、励みとなりました。

今回の食品配付支援はコロナ規制の中、現地の協力が大きな力となりました。連絡機器を持っていない対象児童の保護者に、先生が私物を貸与して配付連絡に使用しました。また、栄養面や衛生面を考え、予算内でできる限り多くの食品配付をしたい旨を業者に説明・値段交渉をして協力を得たり、雨季で連日気温40度の中、トライシクル(三輪車)しか入れない狭い道を通り、欠席だった児童宅に食品を配達して、対象児童全員に配付して下さったこと等々。

フィリピンの人々の日常的に他者を思い助け合う習慣が、彼らを明るくしています。

今後とも支援を継続していくために、温かいご支援をよろしく願いいたします。



毎年継続的に活動を支援いただける方(会員・賛助会員)を募集しています！

資料をお送りいたしますので、RASA-Japan事務局までご連絡ください。

(TEL 052-803-1649 Mail info@rasa-japan.com)

※「遺贈によるご寄付」、「相続財産のご寄付」は、相続税が免除されます。お志のある方はご連絡ください。

今後の活動予定

フィリピンの新型コロナウイルス感染症対策に柔軟に対応しながら、学校建設と給食支援(食品配布支援)活動を進めてまいります。

8月 食品配付支援開始予定

10月 学校建設契約

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています

ホームページ

<http://rasa-japan.com>



YouTube JP



@rasa_japan



@rasa.japan



@rasa_japan

